

佳作
(子どもの部)

「じぶたと自分」

荒川区立第七中学校一年

横山 晃士

先日、昔のおもちゃや本を整理していたところ、幼い頃に読んだ「しょうぼうじどうしゃ じぶた」という本が出てきました。小さな消防自動車 じぶたが、子供たちに人気の立派な消防車やはしご車、救急車をいつもうらやましく思っていたある日、山小屋の火事があり、狭い道に適した じぶたに出動命令が下り、見事山火事を防いだという話でした。

小さい頃は消防車がかっこ良くて何度も読んで

いましたが、話の意味など理解していませんでした。今、中学生として読み返すと、人によって得意分野や役割が違い、それぞれの個性を生かして輝けばいいのだと教わりました。

僕には兄と姉がいます。僕の苦手な事が簡単にできてしまうので、常に二人と比べていました。けれど、この本に出会い、自分にしかできない使命もあると気づくことができました。もっと自分に自信をもって何事にも挑戦していこうと思います。

柳田邦男先生からのメッセージ

中学生になってからでも、絵本を読んでおたよりに書いてくれる人は少なくなっているので残念なのですが、そんななかで、中1の横山くんのおたよりに出会えて、うれしいです。「しょうぼうじど

うしゃ　じぷた」は、私も子どもが小さかったころに何度も何度も「読んで」と言われて、読み聞かせをしたのを覚えています。

狭い道でも入っていける小さな　じぷた　だからこそ、活躍する場所があったのですね。自分が幼かったころのおもちゃや絵本を整理するときに、懐かしく感じる絵本を手にしたら、読んでみるのは、おすすめです。

幼いころに、消防車の活躍をわくわくする気持ちで何度も読むというのは、それはそれで楽しいことです。でも、中学生になったり、もっと成長して大人になったりしてから、絵本を読みなおすと、絵本の作者が、子供が楽しむように創作した文や絵の中に心の持ち方や生き方や人間関係のあり方などについて、大事なメッセージあるいは　語りか

け”を忍びこませていることに気づくのです。

ただ、そのことに気づくかどうかは、読む人の感性が発達しているかどうかにかかっています。

横山くんは、小さな消防車“　じぷた　”の活躍ぶりを見て、この絵本は「人によって得意分野や役割が違い、それぞれの個性を生かして輝けばいいのだ」というメッセージに気づいたのですね。

さらに自分自身について、お兄さんやお姉さんのようにはできなくても（学年が下なのだからできなくて当然です）、「自分にしかできない使命もある」のだから、もっと自分に自信をもって何事にも挑戦していこう」と考えるようになったというのですから、横山くんの感性はすばらしい。

これからは、一か月に一冊でもいいから、小学生時代や幼いころに読んだ本を読みなおしてみ

ください。高校生になるころには、文学作品の読解力がしつかりと身についているでしょう。